

招待講演

子育てにおける動物園の役割

金澤 信治 (札幌市円山動物園)

I. 円山動物園の歴史と概要

円山動物園は、1951年北海道初、国内10番目に開園し、現在約180種900点の動物を飼育展示しています。

多くの動物を飼育展示するには、飼育・繁殖の技術は重要な役割を占めます。動物たちは人間との会話ができないため、飼育員が動物の異常を如何に素早くキャッチするかにかかってきます。自然界は弱肉強食の世界ですから、弱いものやケガをしたものなどは他の動物たちから狙われますので、動物は具合が悪くても悪いことを隠し土壇場まで虚勢を張り、いきなり倒れます。

皆様も患者さんを診療する時、正確なデータを如何にして、素早くどれだけ多くの情報入手するかで治療方針が決まるし、生死に関わると思っています。動物園の獣医師も同様で、命あるものですから懸命の努力をしますが、人間のようになど痛いなどとは言わない動物たちですから手遅れになることも間々あります。したがって、予防が最善の措置で飼育員の素晴らしい観察眼が頼りです。

また、希少動物の繁殖は、飼育員にとっても大変名誉なことです。日頃から動物の体調管理やエンリッチメントに創意工夫し、幸いに繁殖に成功しても次は子育ての問題があります。種によって子育ての方法が異なり、母親が育てるケース、母親と群れ内のメスが共同で育てるケースもあり、人間社会を垣間見ているようで、人間も動物の一種に過ぎないことを再認識させられます。



国内には(社)日本動物園水族館協会があり、希少動物の繁殖に初めて成功した園館に対し繁殖賞を授与していますが、円山は22の繁殖賞を受賞しています。

一方、生まれるものがいれば死ぬものもいるのが世の常です。全国的には毎年10%強の動物たちが残念ながら亡くなります。円山では昨年8%台と少なくなっています。

II. 動物園の役割

動物園の機能には、大きく4つの機能があります。レクリエーション機能のほかに、環境教育、種の保存、動物の調査研究に関する機能を持っています。図1に社会的役割と動物園の関係を示しました。また、動物園を利用する市民が求めている動物園の姿は図2のようになります。

このような背景を踏まえ、円山動物園は将来の方向性を示したのが「札幌市円山動物園基本構想」で、その概念は図3に示しています。

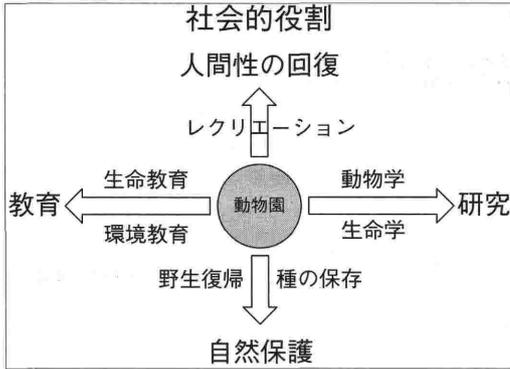


図 1

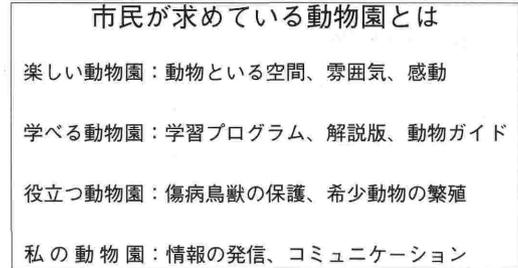


図 2

札幌市円山動物園基本構想

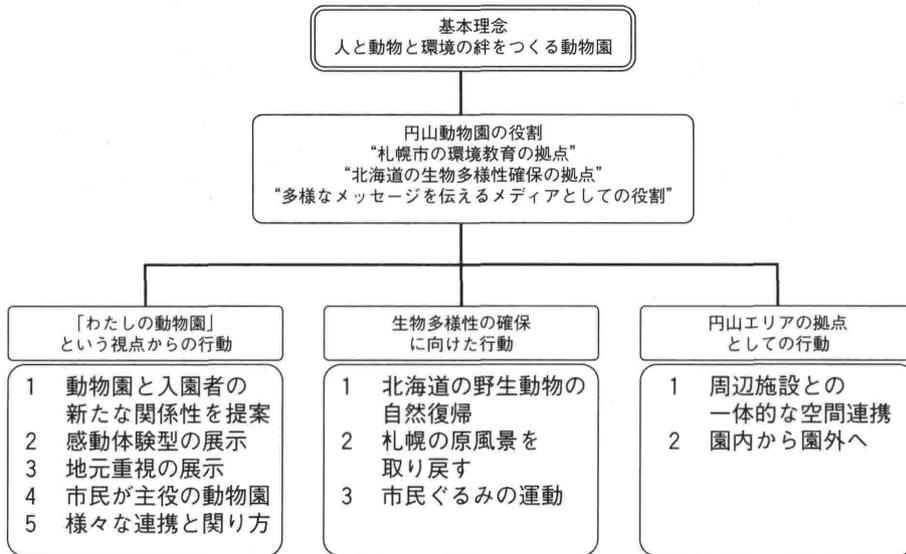


図 3

Ⅲ. 子育てにおける動物園の役割

円山動物園では、来園者に動物の食事風景や能力、さらには動物の置かれている自然環境について知ってもらうため、“みんなのドキドキ体験”という体験感動型のイベントを毎日実施しています。現在、50以上のイベントを日替わりで行っていますが日本で、このイベントを実施できるのも技術の裏付があるからです。

そして、これらのイベントや解説を通じて、動物の子育てなども紹介しています。特に、子育て中の若いお母様方には大変好評で、動物も人間も同じと共感を得ています。

動物には寿命があり、いつかは死んでしまいます。動物たちは、自分の種が絶滅しないように、子孫を残そうとします。これが「繁殖」です。しかし、子どもを無事に成長させ一人前にすることは大変難しく、一大事業です。

繁殖の視点から子どもの生まれ方を見ますと、何種類かに分類されます。

【胎生】は、人間のように子どもとして産む方法で、ある程度の大きさまで母親の体内で成長するので安全確実です。【卵胎生】は、体内で卵を孵化してから子どもを産む方法で、魚類、爬虫類、無脊椎動物等の一部にみられ、卵生よりも安全といえます。【卵生】は、卵で生み孵

化する。魚類、両生類、爬虫類、鳥類、そして昆虫など、多くの動物がこの方法で子孫を残します。多数の卵を産みますがすべての卵が順調に育つわけではなく、成長するのはほんの一部です。産みっぱなしでリスクが多いものは産卵数も多く、親が世話をすることは産卵数が少ない傾向にあります。

次に、私たちの身近で馴染み深いニホンザルの子育てを見てみます。

【新生児期】は、母親は赤ちゃんが1か月までは、胸に子どもを抱きます。これによって母と子の絆がしっかりと結ばれます。1か月を過ぎて1歳までの【幼児期】は『少し離して』という教育をします。子どもと少し離れ、泣くとすぐに抱き上げます。その距離を徐々に離していき子ども同士ふれあいを学びます。1年を過ぎた【少年・少女期】には『ほうっておく』という教育をします。全く無関心ではなくわが子が助けを求めて泣くと、すぐにとんで行って抱き上げますが、普段はほとんど干渉しません。そして段々距離を伸ばしていき、独立させていきます。しかし、家族の絆はすごく強く、誰かがいじめられると皆でカバーするなど団結する力は強いです。

また、子ザルのうちはよくケンカをします。しばらくするとケンカは終わり仲直りし、その後仲良く遊びます。人間のように、いつまでも陰湿にケンカはしていません。人間社会では、ケンカの仲直りどころか、親が口を出してきて一層話しを大きくしてしまう場合があります。そしてケンカの後に仲直りがなかなか出来ない子どもたちが多い理由の一つに、一人っ子ということがあってはとされています。昔は兄弟姉妹がいて、家庭内でしょっちゅう兄弟ゲンカをしても、いつまでもケンカをしていると遊ぶこともできないので、どこかで折り合いを付けて仲直りしていました。仲直りの術を家庭で学んできました。しかし、現在の子どものはこの術を知らないため、幼稚園や小学校などの社会生活の中でケンカしてもなかなか仲直りができないのではと思います。一人っ子でもいいですから家庭で親が子どもとケンカして仲直りの術を教える、ことも大事です。

次に、わが子の認識をどうしているかという

ますと、人間の場合は特に女性は自分が出産しますので、わが子の認識は容易だと思いますが、動物がわが子を認識する方法には3つあります。

1つ目は、視覚です。生まれた子どもを目で見て抱き確認し、わが子と認識します。2つ目は、聴覚です。鳥は卵から孵化する2～30時間くらい前から卵の中と親が鳴き交わし親子の絆をつくります。例えばペンギンがコロニーの中で、どのように親子を確認するかというと、卵の中で聞いた親の声をしっかりと覚えているからといわれています。人間社会でも公園など子どもが大勢いる中でもわが子の声を聞き分ける能力を母親は持っています。3点目は嗅覚です。一般的に動物は、個体によってそれぞれ特有の臭いをもっており、その臭いで家族や子どもを認識し、しかも嗅覚は人間より何倍も優れています。そのため、他人の子どもを育てることはめったにないそうです。

次に、動物を見た人間の子どものとる行動には3タイプあるといわれています。1つは本当に動物をかわいがる子、もう1つは徹底的に動物をいじめる子、もう1つのタイプは動物が恐くて近寄れない子がいます。都市に人口が集中し身近に生き物がいない生活がこんな結果を導いています。以前は小学校でもニワトリ、ウサギなどの小動物を飼育していました。子どもたちが世話しながら自然に死・別れ・命の大切さを学び癒しの効果も知らず知らずのうちに享受していたわけですが、最近ではサルモネラ菌、鳥インフルエンザなどで動物を飼育していない学校が多くなってきました。

円山動物園は、園内のこども動物園でふれあいを行っています。手を咬まれたとって子どもを連れて苦情を申し出る人が時々います。ヤギにさわりたい時は、少し待つか静かに近づくことですが、それができなくていきなり首に抱きつくと、少し離れているとヤギは額で突くことができますが、いきなり抱きつかれると、最後の抵抗は咬むことしかできません。また、ウサギを抱きたいとって、耳を持った後ろ足を引っ張ったりします。数多くの人にされると、さすがにおとなしいウサギでも咬むことがあります。ここで大事なことは、動物たちは嫌だと

いうサインを全身で出しています。これを子どもだけでなく親もキャッチできないのが現状ではないでしょうか。一方では、子どもがヤギやヒツジに触れようとすると、「汚いから触るな」という親もいます。生き物に触れない、生命を感じないで育った子どもが、人の生命を簡単に奪ってしまうという痛ましい事件につながるのではないのでしょうか。

生き物を飼うことができない場合、是非こども動物園で動物とふれあって欲しいと思います。動物園は、生命の大切さを学ぶこともできる場です。

IV. アニマルセラピー効果の検討概要

動物とのふれあいを通してアニマルセラピーへの活用方法の研究を札幌市立大学看護学部、デザイン学部と共同実施しています。

アニマルセラピーに関してはたくさんの研究で明らかにされていて、効果はあるといわれています。動物園の来園者は、動物を「見る・知る・ふれる」ことで、さまざまな思いを持ち帰りますが、セラピー機能に関して検証された研究は少ないと思われます。今回の研究は、動物園の動物と直接あるいは間接的に触れ合うことで得られる機能や可能性を動物園におけるレクリエーションの視点から検討してみようという

ものです。検討イメージは図4の通りです。

図5は、今回の研究の全体イメージです。最終的には動物園全体で癒しの空間を創出することを目標にしています。未知の分野の研究になりますので、手探り状態の取組です。

19年度は、精神に障害をもつデイケアに通所している20～40代の7名に協力をお願いし、夏の3か月実施しました。結果、参加者からは楽しかった、癒されたなどの声が、施設側からも継続の要望がありました。

20年度は、①「動物園で、どのような時に癒しを感じるか」アンケートを実施。②不登校児対策として設置された通級指導学級の生徒・児童を対象に、飼育員の手伝いやイベントに参加する方法で実施。

21年度以降は、実験結果をこれから建設する動物舎での演出効果を高めるのに役立てようと考えています。また、セラピー効果が期待できるプログラムや教育委員会と共同で不登校児が普通学級に復帰するプログラムの開発もめざしています。

一方では、一般の来園者が動物園に来て癒し効果が得られるような施設を目指しています。そして、“みんなのドキドキ体験”も含め動物の魅力とくつろぎの空間を充実し、動物園全体でセラピー効果を発揮する都会の動物園ならで

検討のイメージ

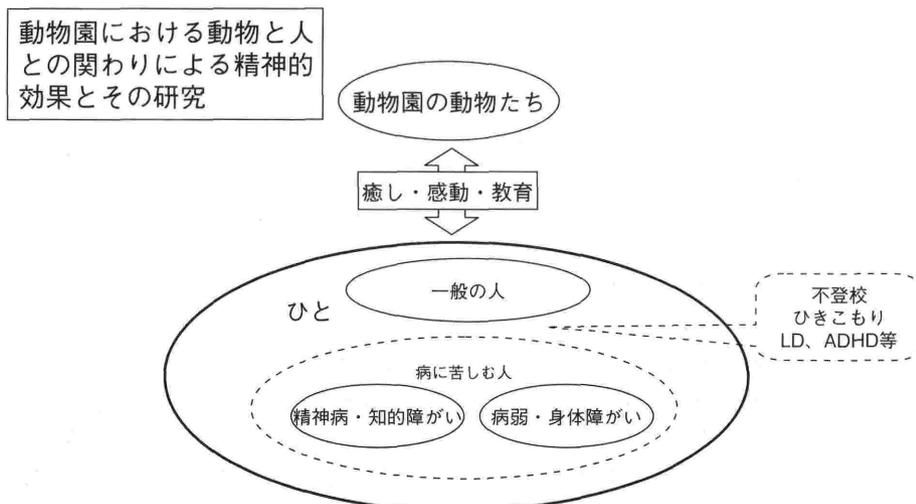


図4

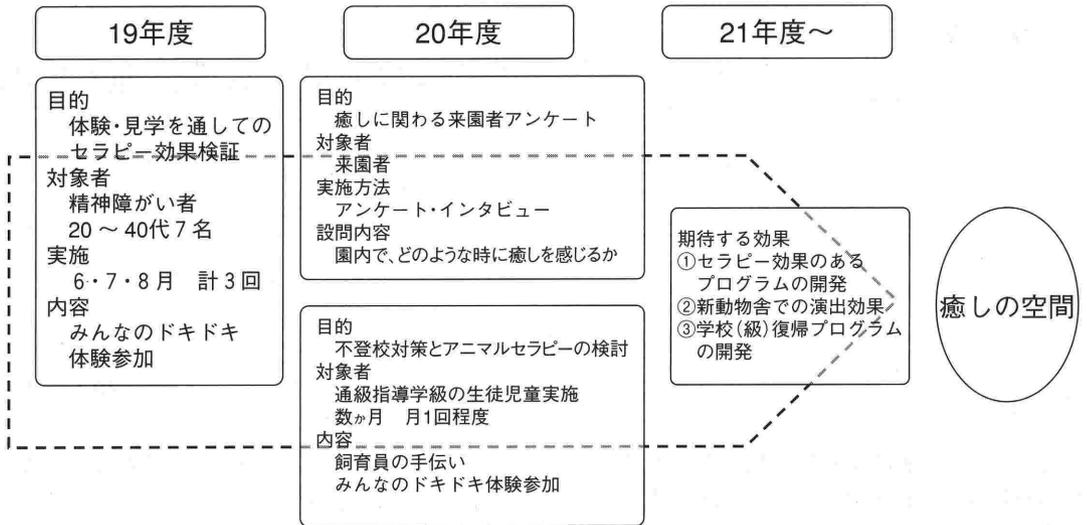


図5

はの「究極の癒し空間」を創出する予定です。

動物園は、動物の生態、動物が本来生息する地域の環境問題、命の大切さなどを総合的に学べる貴重な教育施設でもあり、積極的に情操教育や子育てに関っています。

円山動物園は、これまでのレジャー主体の動物園から、環境教育、種の保存、動物に関する調査研究を活動範囲に含め、市民が魅力を感じ、市民から愛され、そして市民に自慢される動物園「わたしの動物園」をめざしております。